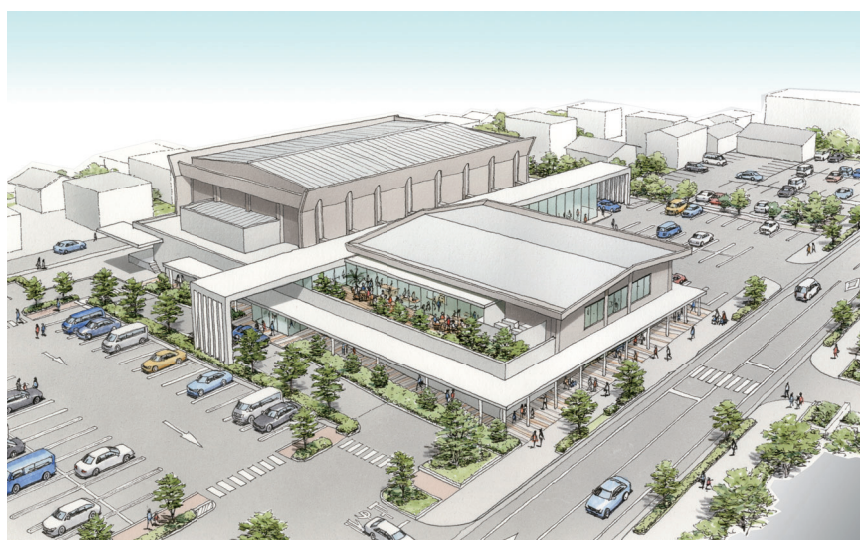


中野市市民会館リノベーション 基本設計公表資料



令和 2 年 11 月

中野市市民会館の整備方針

01 リノベーションの経緯

現在の市民会館は、昭和 44（1969）年にホール棟と会議室棟が建設され、ホール棟において耐震性が不足しています。また、建設から 50 年以上が経過し、各種設備の老朽化が著しく、現在必要とされる施設機能が不足しており、利用しにくい施設となっています。

そのため、令和 2（2020）年 3 月に「中野市市民会館整備方針」を策定し、現市民会館を大規模改修により長寿命化する「リノベーション」により整備することとしました。

02 リノベーションにより整備する理由



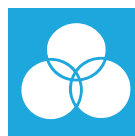
安全・安心の確保

耐震補強により利用者の安全・安心を確保し、今後 30 年以上の長寿命化を図ります。



財政負担の軽減

現市民会館の長寿命化に有利な地方債を活用することで、市財政への負担軽減を図ります。



新たな価値の創造

リノベーションにより現市民会館の課題を解消し、新たな価値を創造します。

03 事業費・財源

想定事業費	内容
21 億円	設計・監理、リノベーション工事、備品購入

財源	金額
公共施設等適正管理推進事業債 (交付税措置あり 令和 3 年度まで)	14.4 億円
一般単独事業債	3.5 億円
公共施設等整備基金	2.8 億円
一般財源	0.3 億円
合計	21.0 億円

04 スケジュール

令和 2 年度 2020															令和 3 年度 2021															令和 4 年度 2022														
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3									
基本設計												← 休館 令和 3 年 6 月～令和 4 年 9 月 →																																
実施設計												開館準備 供用開始 ●																																
工事 13 カ月																											→		●															

「ここじゃ…」を「ここで！」に変えるリノベーション

リノベーションによりワクワクする市民会館に変えたいという想いを込めて『「ここじゃ...」を「ここで！」に変える』をテーマとしています。

偉大な音楽家である中山晋平先生、高野辰之博士、久石譲氏の故郷である音楽都市「中野市」にふさわしい施設を目指し、次の3つのコンセプトに掲げリノベーションを進めます。



ホールの客席や音響などを整え、音楽や演劇など多様な文化芸術に触れる場を創造します。



舞台環境などを整え、小規模な催しでも使用できる多目的ホールなどを設け、多様な表現の場を創造します。

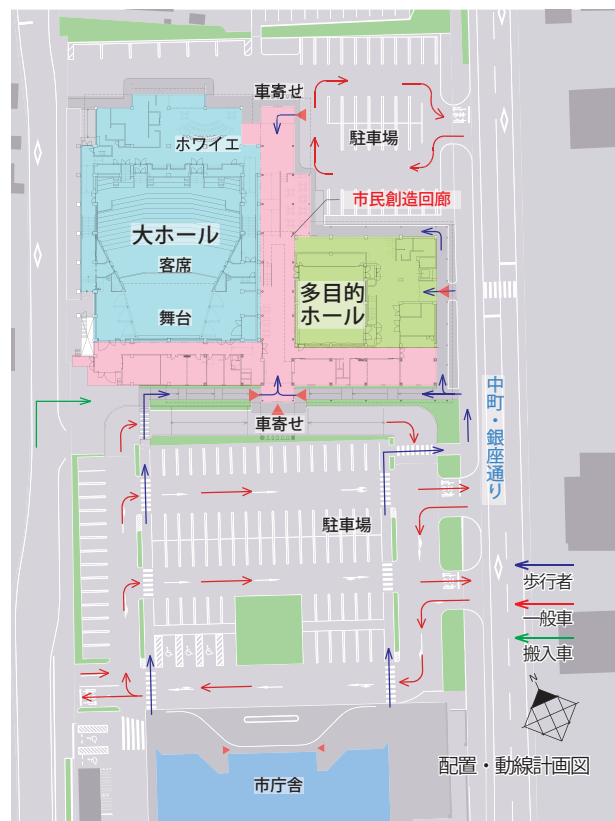


表現活動などでもできる交流スペースなどを設け、多様な文化芸術や人々が集まりつなげる場を創造します。

01 計画概要

所在地		中野市三好町一丁目 3 番12号
敷地面積		約5,370㎡
建築面積		約3,140㎡
延床面積		約4,150㎡
	改修部	約2,970㎡
	新築部	約1,180㎡
構造		鉄骨造・鉄筋コンクリート造
階数		地下1階 地上3階建て
客席数	大ホール	800席 （ 親子鑑賞室及び 車いす席を含む ）
	多目的ホール	170席 （ 車いす席を含む ）
駐車台数		131台 （ 市庁舎駐車場を含む ）

02 配置計画



ホール棟改修 会議棟を多目的ホールに改修 ロビー・楽屋等新築

03 外観イメージ



新たな顔（ファサード）を形成することで、多くの市民を迎える施設となり、市庁舎のファサードとも対峙する中野市の核となる関係を構築します。外装の色は既存の色を活かしながら、新築部分は白を基調とした配色を検討します。

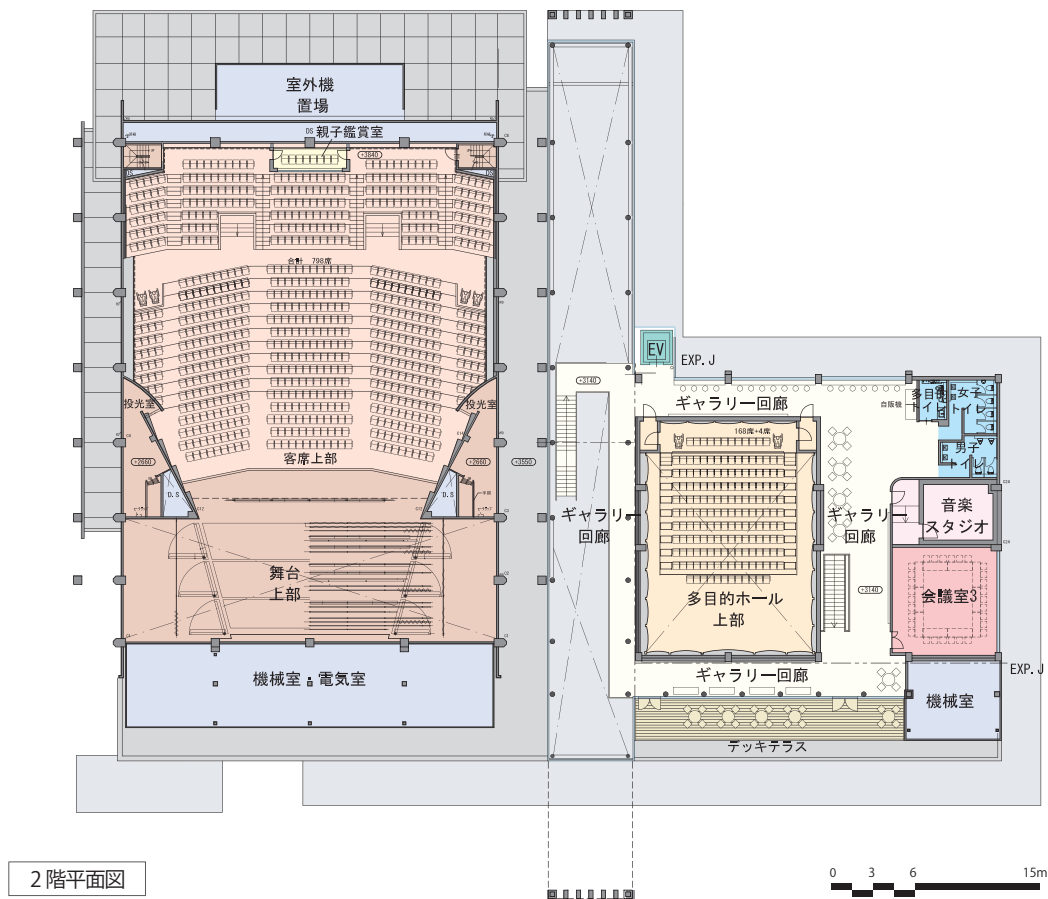
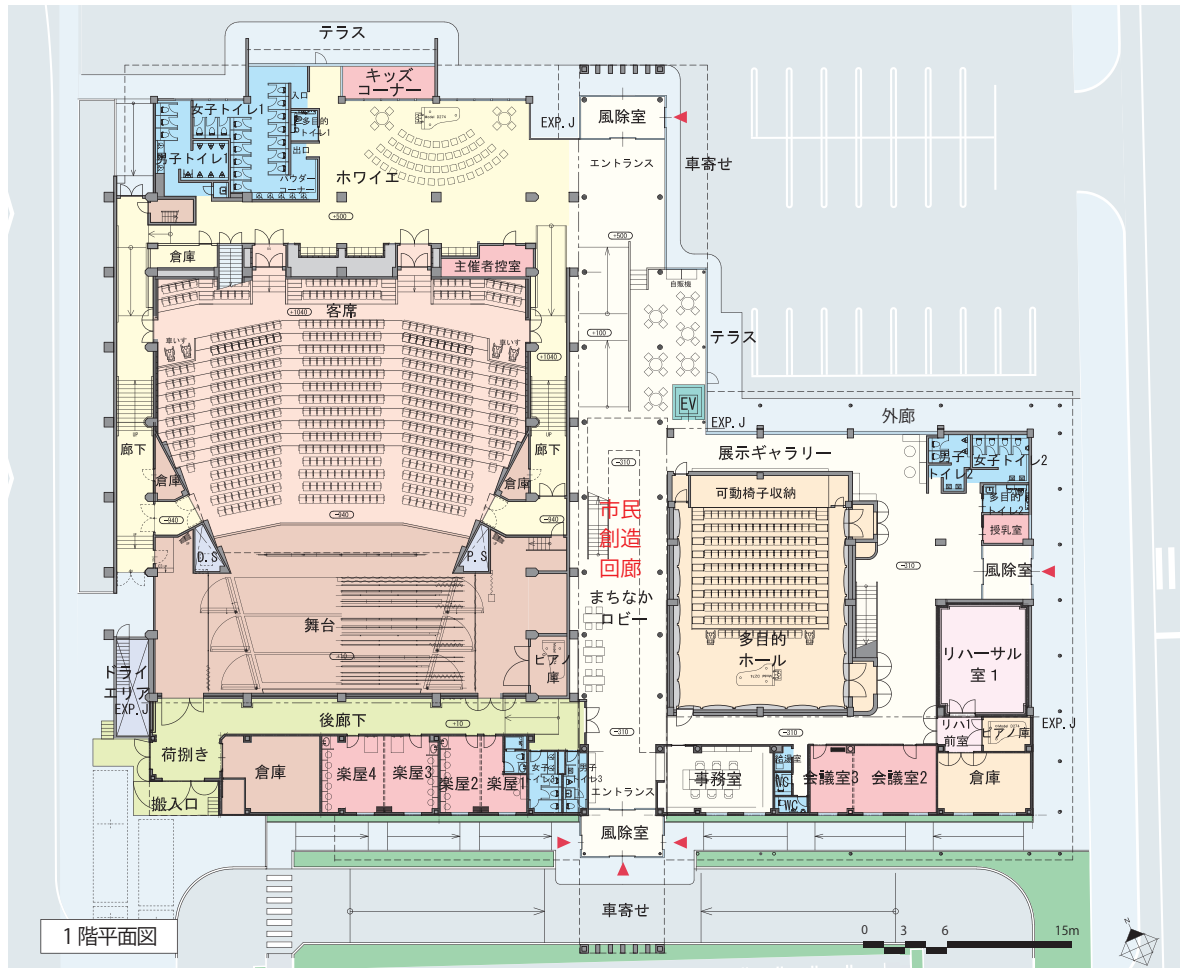


市庁舎側に新たなエントランスを設け、市役所駐車場との一体利用を可能にします。



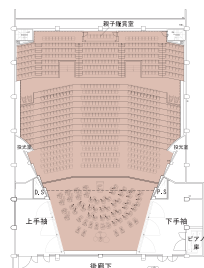
中町・銀座通り側にもエントランスを設け、市民創造回廊とつながることにより、街に開かれた文化施設となります。

04 平面計画

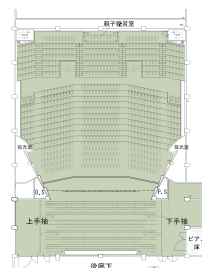


■大ホールの客席配置や椅子を刷新し響きの良い音響空間を創出

- ・舞台中央が観やすく、演者と観客が近い台形の張り出し舞台とし、組床形式とすることで、オーケストラピットにも対応します。
- ・両サイドの客席の角度を斜めにする事で舞台が観やすい囲み型配置とし、観客が舞台を包みこみ一体感を感じる客席空間とします。
- ・椅子の幅を 52 cmに拡張し、背板の角度も調整することで、ゆったり感と視認性を兼ね備えた客席に改善します。
- ・客席中央部を千鳥配置とすることで、視線を改善します。
- ・舞台を拡張するとともに、舞台裏手に楽屋を新築します。
- ・音響効果の優れた音響反射板を設置し、開閉式とすることで演劇や講演会など多様なイベントに対応します。



コンサート形式



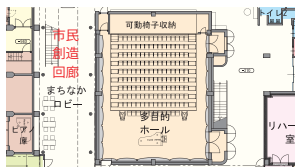
演劇・講演会形式



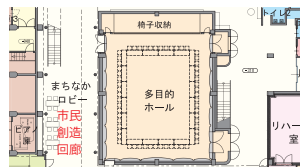
大ホール

■会議室棟を多目的ホール棟に改修

- ・会議室棟を改修し、多目的ホールやリハーサル室、音楽スタジオ、会議室を配置します。
- ・多目的ホールは、壁面収納できる移動観客席を設置し、小ホールとしての建築音響と舞台設備を備えます。
- ・平土間とし、リハーサル室や稽古場、レセプション、大会議室としての利用も可能にします。
- ・展示室としても使用することができ、ロビー空間との一体的な利用もできます。
- ・1階には楽屋と兼用できる会議室、リハーサル室、2階には音楽スタジオ、会議室を配置します。



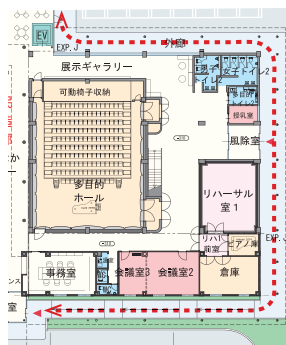
段床利用



会議室利用

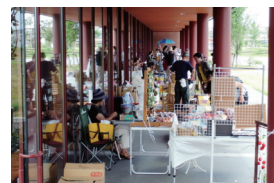
■中央部に交流ロビー、展示空間「市民創造回廊」を新築

- ・市民の芸術活動促進のための市民創造回廊を新築します。
- ・市民創造回廊には音楽スタジオ、リハーサル室、会議室等、多様な市民芸術活動諸室がとりつきます。
- ・廊下そのものが展示空間「ギャラリー回廊」として機能します。
- ・中野市の「ふるさと」をイメージできるよう、内装には高社山のカラマツ材を活用し、天井にはブドウ棚をイメージする木製ルーバーの採用を検討します。
- ・2階北側には高社山を一望できるカウンター席を設け、南側には明るく気持ちの良いデッキテラスを設けます。



1階ギャラリー回廊周辺

- ・多目的ホール棟に外廊を設け、市民マルシェなどの様々なイベントにも対応します。



外廊を利用した青空市の参考例

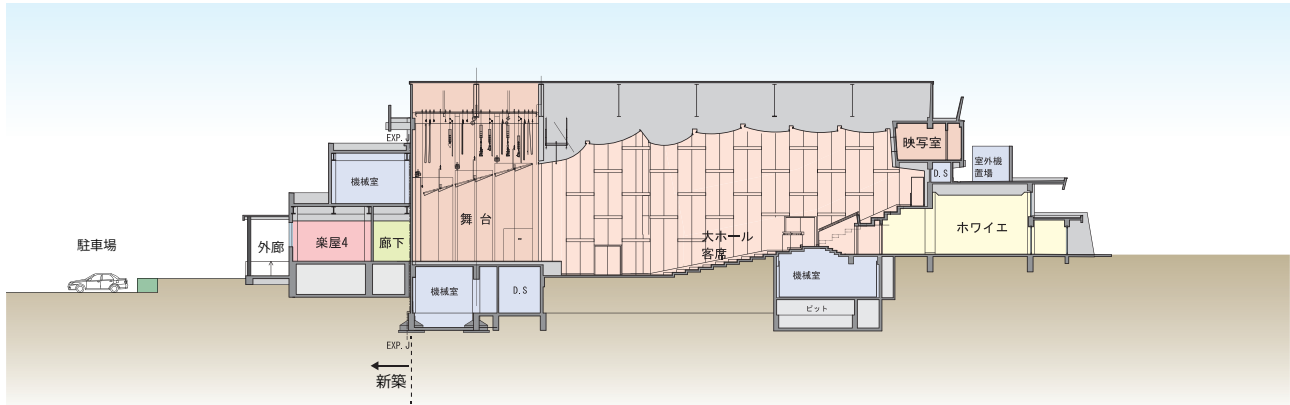


市民創造回廊・まちなかロビー

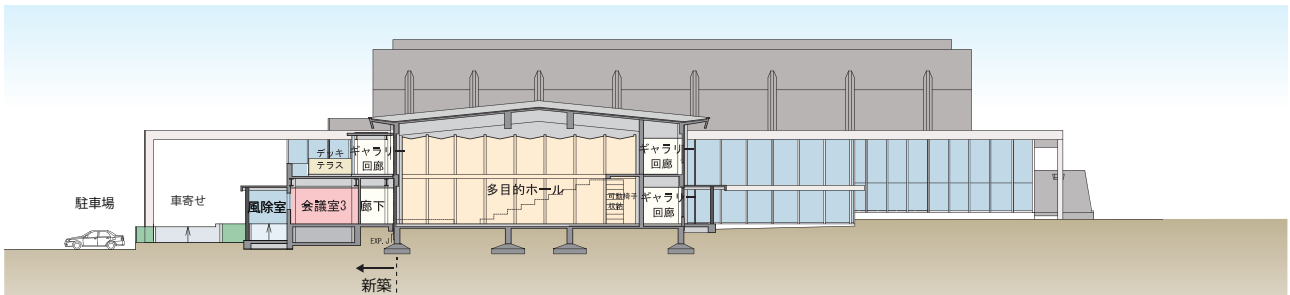
■施設全体のバリアフリー改修

- ・各所床レベルをスロープでつなぎ整えます。
- ・大ホールの客席後方に親子鑑賞室を設置します。防音仕様とすることで、親子だけでなく障がい者や主催者の鑑賞室としても利用できます。
- ・大ホールと多目的ホールに車いす席を設けます。
- ・地階にあったトイレを1階ホワイエに新設し、誰もが使いやすく広いトイレとします。
- ・市民創造回廊にエレベーターを設置します。

05 断面計画



大ホール 南北断面図



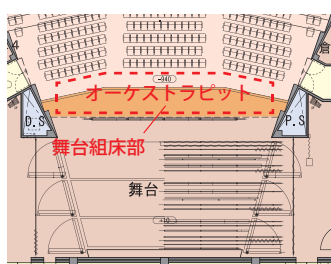
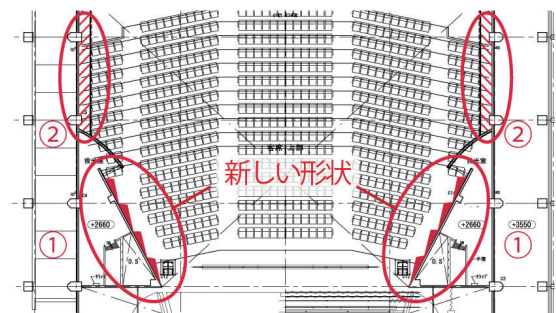
多目的ホール南北断面図

06 音響・舞台計画

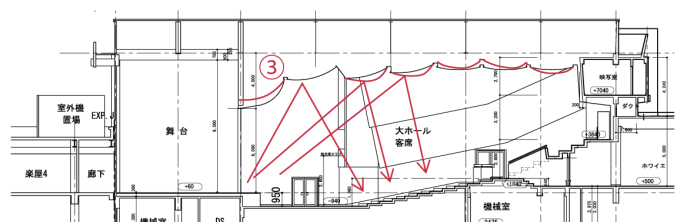
■初期反射音を重視した音響性能と建築意匠との調和

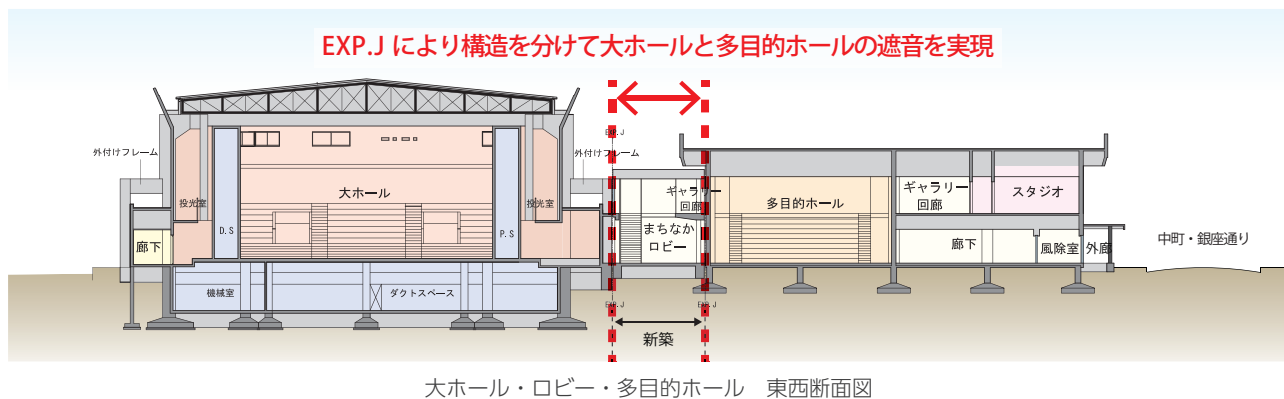
- 初期反射音が、客席全体に様に時間的にバランスよく様々な方向から到達する、質の高い響きを実現します。
 - 客席中央エリアに多くの反射音を届けるために、サイド投光室から舞台側の壁面は折れ壁状に改修し、壁の開きを狭める工夫を施します。
 - 中通路付近の壁面には、庇状の水平な反射面をつくり、庇による反射音を増やします。
 - 舞台開口と客席天井高さを高くし、より気積を確保するとともに、天井形状は客席に音をはね返すような形状とします。
- 非構造物である客席上部のホール特定天井の改修を実施し、利用者の安全確保を図ります。
- 豊かな音の響きを実現するため、次の5つの音響的条件を満たす計画とします。

- ① 初期反射音の確保
- ② 音色と音圧分布
- ③ 残響時間とその周波数特性
- ④ 有害エコーの除去
- ⑤ 空調音などの暗騒音の低減



- 客席側の組床形式の舞台を取り外すことで、オーケストラピットにも対応します。





07 設備計画

■機械設備(空調設備工事)

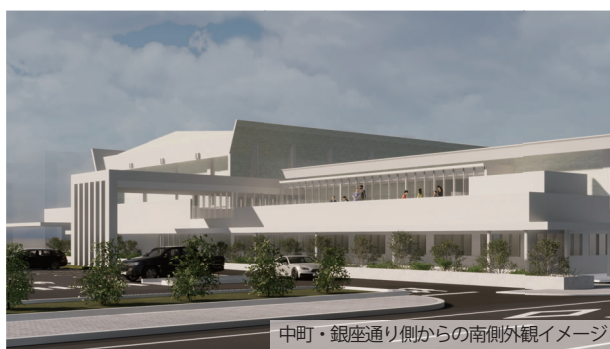
- ・既存機械室棟は解体し、新たな機械室は市民会館内へ設置及び増築します。
- ・空調設備システムは、ライフサイクルコスト、省エネルギー性、環境負荷低減、保守性などに配慮した方式とします。
- ・騒音・振動対策の徹底を図るとともに、観客に対する気流を改善します。
- ・大ホール、多目的ホールは、新型コロナウイルス等感染症対策に有効な換気量の確保及び、省エネルギー対策のため、排煙窓を利用した換気、夜間・早朝の外気冷房方式を採用します。

■機械設備(衛生設備工事)

- ・トイレなどの水廻りは、ユニバーサルデザインに配慮し快適に利用できる計画とします。
- ・機器・器具類は、節水・節電型器具を採用し省エネルギーに配慮するとともに、維持管理が容易な機器とします。

■電気設備

- ・高度化、多機能化する文化施設に対応し、信頼性・汎用性に配慮した設備計画とします。
- ・音楽主体の多目的ホールとしての特性を考慮し、操作性、メンテナンス性に配慮した計画とします。
- ・施設利用者の安全性に配慮するとともに、管理しやすいセキュリティ設備計画とします。
- ・自然災害等における停電に備え、管理室系、一部の楽屋・トイレに対し、非常用発電機を設置します。



08 耐震補強計画

■耐震補強が新たな魅力構成となり懐かしさが感じられるリニューアルデザイン

- ・耐震補強する構造がもともとあったような、自然で違和感のないデザインとします。
- ・これまで市民に愛された市民会館の良さ、懐かしさをできるだけ残したデザインとし、外壁や屋根構成は現在のデザインを尊重し、愛着を継承しながら、新しい魅力をもつ空間をとします。

■Is 値（構造耐震指標）の目標

現状	耐震補強後の目標
0.22 ～ 1.82	0.75 以上

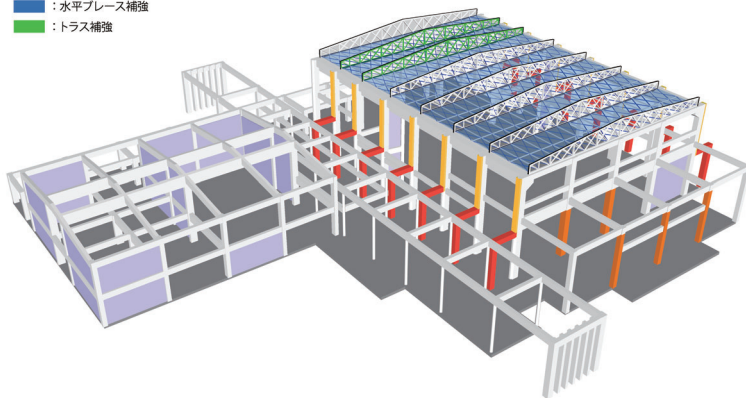
※ Is 値（構造耐震指標）：建物の耐震性能を表す指標で、値が大きいほど耐震性が高いと判断されます。

- ・ 0.3 未満…大規模な地震に対して倒壊などの危険性が高い。
- ・ 0.3 以上 0.6 未満…大規模な地震に対して倒壊などの危険性がある。
- ・ 0.6 以上…大規模な地震に対して倒壊などの危険性が低い。

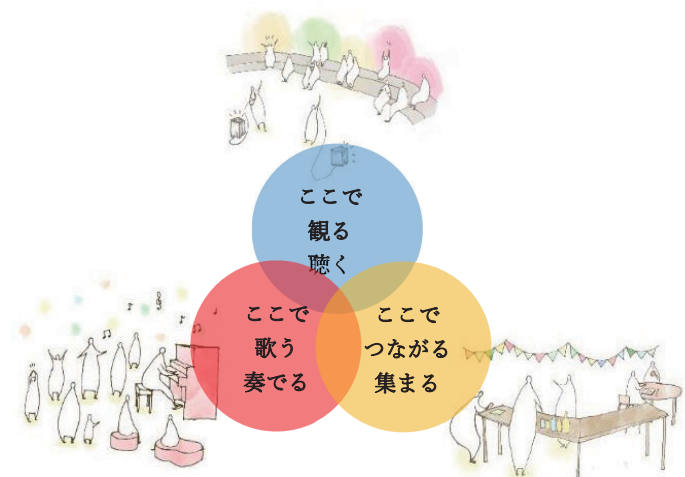
市民会館は、不特定多数の人が使用するため、構造耐震判定指標を 0.6×1.25 （用途係数）= 0.75 とします。

■耐震補強・長寿命化計画の概要

- ：外付けフレーム
- ：柱増し打ち
- ：柱鋼板巻
- ：耐力壁
- ：水平ブレース補強
- ：トラス補強



- ・市民会館の内部機能と開放性を確保するため、耐震性の低い東西方向は外付けフレーム構法により補強します。
- ・ホールは、屋根面の断熱改修や舞台機構の新設、音響性能の改善、客席天井の耐震化を行います。
- ・天井の質量増に対応するため屋根鉄骨トラスの補強を行います。
- ・多目的ホール棟は、耐力壁が撤去される部分に対し、同等の耐力壁を別の位置に増設し、耐震性能を確保します。
- ・長寿命化対策と定期的に改修工事を行うことで、今後 50 年程度の使用を目指します。



「ここじゃ…」を「ここで！」に変えるリノベーション